

【IDWR 感染症週報】

2026 年 31～34 週までをお届けさせていただきます。

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2026/idwr2026-34pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2026/idwr2026-33.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2026/idwr2026-31-32.pdf>

<発生動向総覧と状況>

- ・ 第 33 週・34 週インフルエンザの定点当たり報告数は第 26 週以降増加が続いている。
- ・ 第 30～32 週の手足口病の定点当たり報告数は減少した。

<定点把握の対象となる 5 類感染症>

・ インフルエンザ

定点当たり報告数は第 26 週以降増加が続いている。都道府県別の上位 3 位は沖縄県 (4.43)、岩手県 (2.10)、青森県 (2.08) である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は 167 例と前週と比較して増加した。都道府県別では 40 都道府県から報告があり、年齢群別では 0 歳 (4 例)、1～9 歳 (35 例)、10 代 (7 例)、20 代 (3 例)、30 代 (4 例)、40 代 (4 例)、50 代 (9 例)、60 代 (17 例)、70 代 (34 例)、80 歳以上 (50 例) であった。

・ 新型コロナウイルス

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位 3 位は島根県 (3.50)、和歌山県 (2.89)、栃木県 (2.36) である。基幹定点からの新型コロナウイルス感染症入院サーベイランスにおける報告数は 316 例と前週と比較して増加した。都道府県別では 44 都道府県から報告があり、年齢群別では 0 歳 (16 例)、1～9 歳 (69 例)、10 代 (4 例)、20 代 (2 例)、30 代 (8 例)、40 代 (5 例)、50 代 (12 例)、60 代 (17 例)、70 代 (72 例)、80 歳以上 (111 例) であ

った。

・急性呼吸器感染症

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は群馬県（55.91）、埼玉県（54.18）、栃木県（54.04）である。

小児科定点報告疾患（主なもの）

・RS ウィルス感染症

定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は福井県（1.80）、佐賀県（1.67）、沖縄県（1.63）である。

・咽頭結膜熱

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は奈良県（0.92）、島根県（0.91）、徳島県（0.86）である。

・A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は愛媛県（4.10）、鳥取県（2.74）、島根県（2.55）である。

・感染性胃腸炎

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は石川県（6.71）、福井県（6.40）、大分県（5.78）である。

・水痘

定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期（前週、当該週、後週）の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は大分県（1.64）、長崎県（0.77）、新潟県（0.63）である。

・手足口病

定点当たり報告数は第30週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は岩手県（7.48）、北海道（6.48）、宮城県（6.13）である。

・伝染性紅斑

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は群馬県（0.21）、愛媛県（0.20）、徳島県（0.19）である。

・ヘルパンギーナ

定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は山形県（1.62）、北海道（1.44）、宮城県（1.35）である。

・流行性耳下腺炎

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位2位は群馬県（0.13）、三重県（0.10）、兵庫県（0.10）、福岡県（0.10）である。

基幹定点報告疾患

・マイコプラズマ肺炎

定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は群馬県（1.78）、埼玉県（1.67）、愛知県（1.40）である。

・感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）

定点当たり報告数は減少した。5都道府県から6例報告があり、年齢群別では0歳（1例）、1～4歳（1例）、5～9歳（1例）、10代（3例）であった。